

第6学年音楽科学習指導案（略案）

○組 計 39 人
指導者 ○○ ○○

- 1 題材 アジアの音楽
 教材 ◎「春の海」 宮城道雄作曲
 「アリラン」 アジア音楽研究グループ作詞 朝鮮半島民謡
 「越天楽今様」 慈鎮和尚作歌 日本古謡（本時主教材）

2 本時（5／5）

(1) 目標

- ア 日本に古くから伝わる音楽の旋律の動きや伴奏の響きを味わいながら、合奏することができる。
【知識及び技能】
- イ 雅楽の雰囲気が出るように、演奏の仕方を工夫することができる。【思考力、判断力、表現力等】

(2) 本時の展開に当たって

雅楽「越天楽」の雰囲気により近い演奏をすることで、日本に古くから伝わる音楽のよさをとらえ直すことができるように、雅楽「越天楽」の演奏を聴かせる活動を取り入れるようにする。

(3) 実際

過程	主な学習活動	時	○教師の具体的な働きかけ
課題把握	1 前時の学習を想起し「越天楽今様」を合奏する。 2 雅楽「越天楽」を聴き、本時のめあてについて話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">雅楽のふん囲気が出るように合奏しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 旋律の音の変わり目をずらしたり、伴奏の継ぎ目をなくしたりして演奏している。 ・ 雅楽の雰囲気が出て、日本の古い音楽の感じが出ている。 	↑ 10 ↓	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分たちの演奏の工夫についてとらえ直しができるようにするために、「自分たちの演奏の仕方と違うところはどこかな」「旋律と伴奏の仕方、工夫していることはないかな」など、焦点化した発問を投げかけてから雅楽を聞かせるようにする。 ○ 雅楽の雰囲気についての具体的なイメージをもたせるために、平安時代の優雅な世の中を、様子を表した挿絵を用いて想像させるようにする。 ○ リコーダーや鍵盤ハーモニカの演奏の仕方をイメージすることができるようにするために、音をずり上げたりずり下げたりする部分や、ずらして息つぎする部分を拡大楽譜に図示する。 ○ お互いの演奏を聴き合い、もっと工夫したら雅楽の雰囲気に近づくことに気付くことができるようにするために、2グループ同士の学び合いの活動を取り入れるようにする。 ○ 前時よりも音楽表現が高まっていることを実感することができるようにするために、前時の合奏の録音と聴き比べる活動を取り入れるようにする。 ○ 雅楽をはじめとする日本の伝統音楽のよさを味わえたか評価するために、「どんなよいところが味わえたかな」などと問いかけるようにする。
課題追求	3 楽器ごとに、演奏の工夫について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ リコーダーの旋律は、穴を指でスライドさせて吹くと、雰囲気が出るよ。 ・ 鍵盤ハーモニカの伴奏は、他の人と息つぎをずらすと、つながって聞こえるよ。 	↑	
表現の工夫	4 3で話し合ったことを基にグループで練習する。 (1) 楽器ごとにわかれて練習する。 (2) グループで合奏する。	30	
相互発表・鑑賞	5 グループごとに発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ○班は鍵盤ハーモニカがうまくつながって聞こえてきたよ。 	↓	
まとめ	6 全員で合奏した後、前時の合奏の録音と聴き比べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 前の時間よりも、雅楽の雰囲気がよく出ていたよ。 	↓	
まとめ	7 学習のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ゆったりとした平安時代の優雅な雰囲気を味わえました。 	↑ 5 ↓	